

6 新カンキツ「天草」の品種特性

ねらいと成果

淡路カンキツの再生をめざして、消費者志向及び「公園島あわじ」の整備に伴う、新たな需要に対応するカンキツ産地育成、強化の様々な取り組みが進められている。中晩カンでは新品種について検討しており、平成8年に「不知火」M-16Aが普及段階となった。平成7年から「不知火」より早熟な品種として「天草」の適応性を検討した結果、1月から2月に出荷が可能な有望品種と判断された。

内容

1 既存品種との比較

「天草」を既存の「イヨカン」「不知火」などと、比較すると、「天草」は、①減酸が早く熟期は1月上旬頃 ②果皮が淡赤橙色で美しい ③果皮が薄い ④栽培が容易などの特色がある。

2 淡路における適応性

地域適応性を検討するため、気象、土壌条件の異なる淡路農業技術センターほ場及び現地で栽培している樹の生育状況、果実肥大及び品質などについて調査した。

(1) 樹性

樹勢は中程度。高接ぎ初年目の新梢伸長は旺盛であるが、2年目以降結実開始とともに樹冠拡大は緩慢となる。樹姿は開張性。枝梢の密度は中からやや密で普通温州より密生する。

(2) 結実性

花は単性。単為結果性が強く無核果になるが、他家受粉により10個以上の種子が入ることがある。豊産性で温州ミカンに近い収量が期待できる。

(3) 果実

果実は200g程度で玉揃いは良い。果形は扁球形で果形指数120位。果実のしまりは良く、浮皮は見られない。着色は10月20日頃より始まり、12月中旬に完全着色し、淡赤橙色となる。その後、陽光面では退色が見られ赤みが減少し、ヘタ部に

亀裂が入りやすい。果皮の厚さは薄く滑らかで美しい。じょうのうは薄く、苦味は無い。香りはオレンジ香に近く良好。適熟期の糖度は10~13、酸度は1%程度。熟期は1月上旬頃。夏季における土壌の過乾燥により、高糖高酸の小果や裂果が発生しやすい。

(4) 病虫害

かいよう病にり病性で温州ミカン並かやや弱い。ミカンハダニの発生が他カンキツよりもやや多い。

普及上の注意事項

「天草」は樹上で完全着色後、果皮が退色しヘタ部に亀裂が入りやすく商品価値が低下するので収穫の適期は短い。したがって「天草」を短期間に収穫できるように品種構成や収穫労力の確保を検討する。また、厳寒期前に収穫が可能なため、冬季の低温で「不知火」などの栽培が困難な地帯での普及も考えられる。 上谷 安正（淡路農技・農業部）

図 「天草」の果実

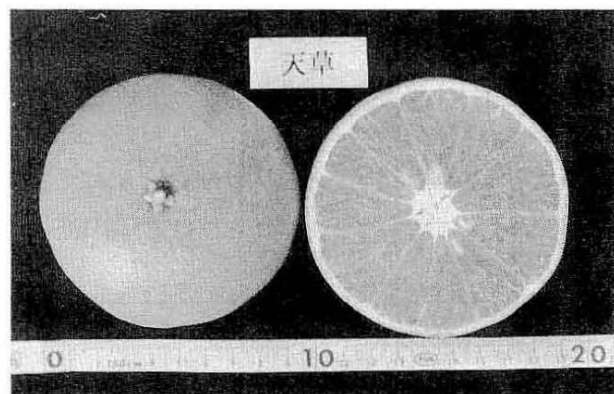


表 「天草」の年次別果実品質（淡路農技）

年次	分析月日	果肉歩合	糖度	酸度	果皮色(a値)
H. 8	1/9	80.0%	10.2	1.05%	32.1
H. 9	1/23	82.1	10.9	1.00	35.6
H. 10	12/28	83.8	11.1	1.12	33.0

平成7年に15年生ナルトに高接。数値は3樹の平均値
採果はH. 8(1/9)、H. 9(1/5)、H. 10(12/28)